

# 日本の甘味が世界を魅了中！！

## キャンディー類の輸出

### 2023年 名古屋港からの輸出

初となる 3,000トン超え 30 億円超えを達成

全国港別(空港含む)シェアで数量及び金額ともにトップ



ちょっと疲れた時、甘いものが欲しいなあと思ったそんな時、あると嬉しいのが「キャンディー」ですね。そんなキャンディーの多くが名古屋港から輸出されていることはご存知でしょうか？

最近は日本のお菓子が海外で人気であると耳にしますが、キャンディー類の輸出も増加傾向にあり、世界の人々を魅了しているようです。

今回はキャンディー類の輸出について様々なトピックを交えながらご紹介します。

キャンディー好きはどこ？

コンビニやスーパー等で気軽に購入できるキャンディー。総務省統計局の家計調査では、キャンディーの支出額が公表されています。では、キャンディーの 2020 年～2022 年平均支出金額が最も多かった都市は次のうちどれでしょう？

1. 大阪市
2. 京都市
3. 岐阜市

答えは  
4ページに

本資料におけるキャンディー類とは、

輸出統計品目番号「1704.90-100 砂糖菓子（ココアを含有するものを除く）-その他のもの--キャンディー類」に分類されたものを集計したものとなります。

当該品目番号は砂糖を使用したものが前提であり、飴玉のようなハードキャンディーやグミのようなソフトキャンディーも分類されます。ただし、含まれる成分等によっては別の品目番号に分類される場合もあります。



～過去最高を記録し増加傾向～



上の表は名古屋港におけるキャンディー類の輸出推移です。

2012年頃から増加傾向にあり、コロナ禍にあった2020年に一旦減少するものの、そこから大きく上昇し、2023年は

① 数量及び金額が過去最高

② 年間実績で初となる数量3,000トン超え、金額30億円超え

を達成しました。

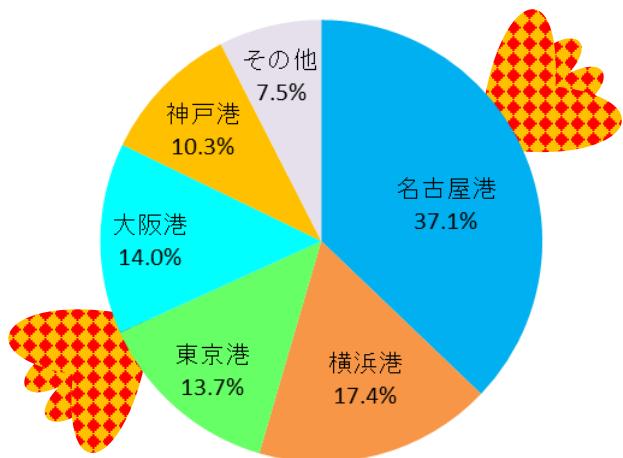
海外では柔らかい食感のグミを始めとしたソフトキャンディーの人気が高まり、需要が伸びていることが増加要因の一つとして挙げられます。

また、2022年に発効されたRCEP協定※によってキャンディー類の品目別原産地規則の判定が容易となった点等の利点もあり輸出増加に繋がった企業もあります。

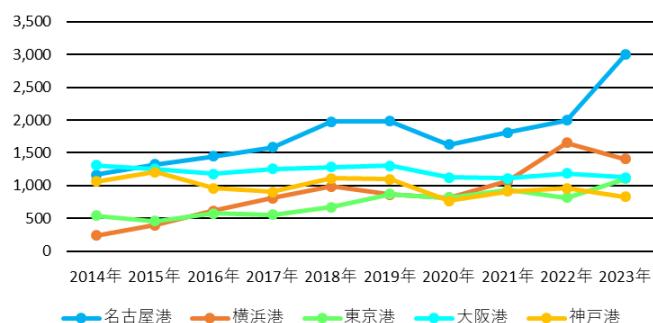
※RCEP協定：地域の貿易や投資の促進等に向けて日本、中国、韓国、オーストラリア、タイ等15か国が参加する経済連携協定。

## 全国港別（空港含む） 輸出実績

2023年 数量 構成比  
8,078トン

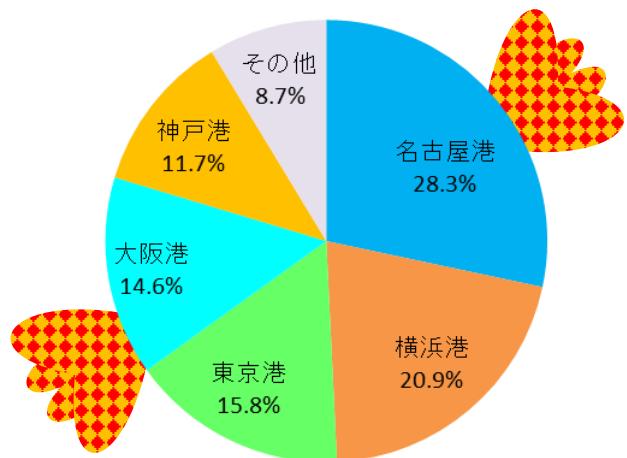


## 港別 輸出数量推移



～名古屋港が数量及び金額ともに1位～

2023年 金額 構成比  
116億円



港別の輸出実績を見ると、2023年は数量及び金額ともに名古屋港が全国で第1位となっており、全国の輸出のうち数量では約4割、金額では約3割を占めています。

直近10年間の数量を見ると名古屋港は上位に位置しており、2015年からは全国1位を維持しています。

## お菓子メーカー大集結 ～明道町～

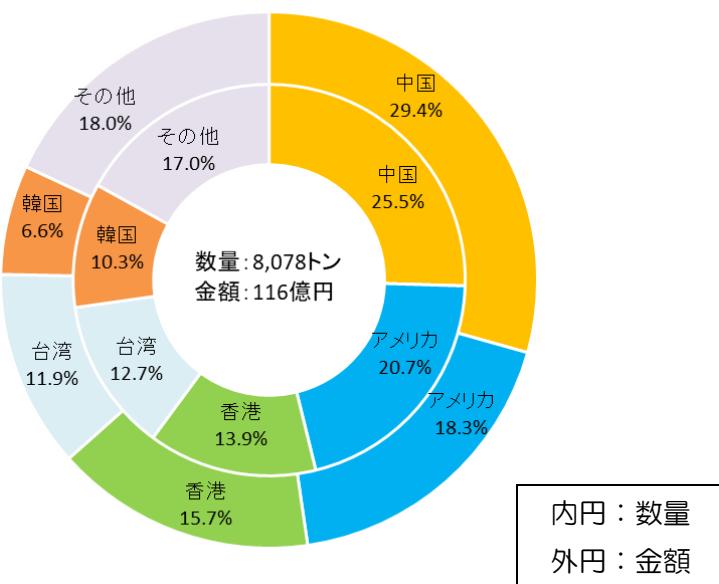
名古屋市西区には「明道町」と呼ばれるお菓子の製造業者や菓子問屋の集積地があり、菓子作りが盛んな場所となっています。その始まりは江戸時代で名古屋城の築城に従事する職人のおやつの場として城に近い明道町に菓子屋ができしたことといわれています。また、美濃路を行き交う旅人に向けて、尾張藩の武士たちが内職で飴菓子などを作ったことから、菓子作りの拠点として栄えました。

次に発展したきっかけとなったのは、大正12年（1923年）の関東大震災といわれています。震災により東京の菓子業界が打撃を受け、多くの職人が名古屋に流れてきて、そこから新しい技術が伝わったことで明道町の菓子は全国へ拡大、明道町は日本有数の菓子問屋街となり、高度成長期に隆盛を極めました。

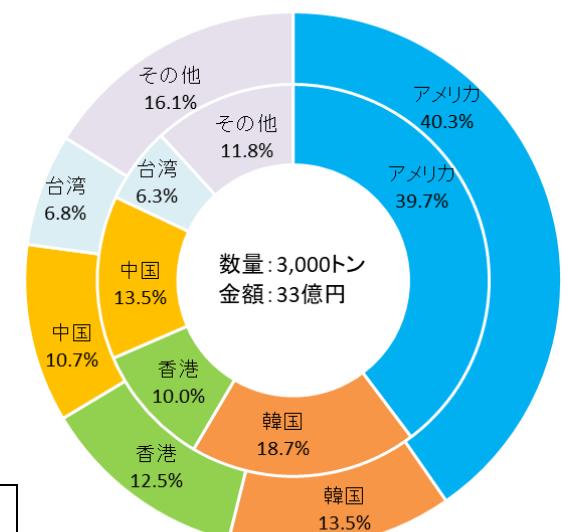
現在でも明道町には昭和初期に創業した老舗の菓子メーカー等が集まっています。さらに、西区内には複数の菓子メーカーが所在しており、全国規模の菓子製造の拠点となっています。

（参考：名古屋市西区役所発行「西区70年のあゆみ」）

2023年 全国 構成比



2023年 名古屋港 構成比



キャンディー類の輸出先としてはアジア地域の割合が多くを占めています。アメリカへの輸出が多くなっており、その一因は在住するアジア系の人々への需要が高いためです。

アジア系の人々に需要が高い要因としては、「日本人と食の好みが似ている」ことや「日本製品は安心安全」というイメージがあることが挙げられます。

また、日本のキャンディー類は種類豊富で多彩な商品パッケージという点も海外で人気がある要因の一つです。

### 答え

答えは「3. 岐阜市」でした。

理由は定かではありませんが、岐阜県は婚礼等のお祝い事に「菓子まき」の文化があり、キャンディーが多く使われているのではないか、との意見がありました。

順位	都市名	キャンディー支出金額
1	岐阜市	2,709円
2	広島市	2,623円
3	高松市	2,529円

【左表出典】家計調査結果（二人以上の世帯）品目別都道府県庁及び政令都市ランキング 2020年～2022年平均  
(総務省統計局：<https://www.stat.go.jp/data/kakei/5.html>)  
上記出典先を加工して作成

※総務省統計局の「キャンディー」と財務省貿易統計の「キャンディー類」の分類基準は異なります。



## 飴の日本史

手頃なお菓子として最適な飴（キャンディー）。そんな飴を日本人はいつごろから口にしていたと思われますか？

奈良時代に書かれた「日本書紀」によると、なんと今から約2700年前（紀元前！）に日本で初めて作られたと記されています。初代天皇である神武天皇が甘い飴で人々を幸せにして国を平和にするために、初めて飴を作ったとされています。

一般的なお菓子として生活に浸透してきたのは江戸時代（1603年～1867年）といわれています。

日本では長年、米を原料とした水飴が作られていましたが、江戸時代に飴の原料となる黒糖が流通したことから、固い飴やより甘くおいしい飴を作り出せるようになりました。

また、江戸時代では派手な衣装で楽器を鳴らしながら飴を売る「飴売り」が登場し、飴が固まる前に曲げたり、膨らませたりして形を作る姿を見せて、人々を楽しませていました。この飴売りが作り上げた飴が「飴細工」と呼ばれるようになりました。現在では日本の伝統文化として親しまれています。

（参考：日本事情紹介ホームページ「Web Japan」）



### 今後の動向

種類豊富で海外から人気のある日本のキャンディー類は、インバウンド効果等もあり輸出増加は継続するだろうとの意見もあります。アジア地域以外の国々にも輸出の販路を拡大したい、との企業もありますが、着色料等の原料や包装材に関する規制等が国によって異なるため、その対応が課題の一つとなっています。

日本のお菓子の輸出拡大に取り組む全日本菓子輸出促進協議会では、海外で行われる展示会やスポーツイベント等でPR活動を行っており、日本のキャンディーはこれからも世界中の人々を魅了していくのではないでしょうか。



#### 【取材協力】

- ・全日本菓子輸出促進協議会
- ・サンタトレーディング 有限会社
- ・株式会社 リボン
- ・栄光堂商事 株式会社 他

（順不同）

## 1. 輸出推移

年月	全国実績				名古屋港実績					
	数量 (KG)	前年比	金額 (千円)	前年比	数量 (KG)	前年比	全国比	金額 (千円)	前年比	全国比
2008年	4,824,654	102.8%	4,214,716	109.7%	1,377,531	94.6%	28.6%	1,079,834	105.3%	25.6%
2009年	3,693,415	76.6%	3,412,832	81.0%	1,122,981	81.5%	30.4%	937,168	86.8%	27.5%
2010年	3,773,544	102.2%	3,502,226	102.6%	1,160,639	103.4%	30.8%	952,243	101.6%	27.2%
2011年	3,010,254	79.8%	2,925,691	83.5%	989,485	85.3%	32.9%	824,269	86.6%	28.2%
2012年	2,922,594	97.1%	2,975,211	101.7%	914,275	92.4%	31.3%	843,038	102.3%	28.3%
2013年	3,679,977	125.9%	3,972,964	133.5%	941,797	103.0%	25.6%	896,457	106.3%	22.6%
2014年	4,442,779	120.7%	5,136,337	129.3%	1,164,873	123.7%	26.2%	1,152,507	128.6%	22.4%
2015年	4,885,819	110.0%	6,073,853	118.3%	1,327,390	114.0%	27.2%	1,375,633	119.4%	22.6%
2016年	5,104,421	104.5%	6,456,864	106.3%	1,446,694	109.0%	28.3%	1,541,368	112.0%	23.9%
2017年	5,339,811	104.6%	6,821,720	105.7%	1,586,420	109.7%	29.7%	1,686,806	109.4%	24.7%
2018年	6,443,480	120.7%	8,235,266	120.7%	1,972,691	124.3%	30.6%	2,033,992	120.6%	24.7%
2019年	6,449,924	100.1%	8,643,297	105.0%	1,983,724	100.6%	30.8%	2,051,410	100.9%	23.7%
2020年	5,569,897	86.4%	7,667,402	88.7%	1,628,391	82.1%	29.2%	1,581,288	77.1%	20.6%
2021年	6,432,746	115.5%	9,300,131	121.3%	1,814,374	111.4%	28.2%	1,978,330	125.1%	21.3%
2022年	7,165,050	111.4%	10,367,128	111.5%	1,996,950	110.1%	27.9%	2,246,015	113.5%	21.7%
2023年	8,077,628	112.7%	11,604,975	111.9%	3,000,336	150.2%	37.1%	3,288,749	146.4%	28.3%

## 2. 国・地域別実績

## (1) 2023年 全国 輸出実績

世界	全国実績					
	数量 (KG)	金額 (千円)		前年比		
		前年比	構成比	前年比	構成比	
世界	8,077,628	112.7%	100.0%	11,604,975	111.9%	100.0%
アメリカ合衆国	1,671,627	164.8%	20.7%	2,128,355	118.1%	18.3%
大韓民国	831,488	119.5%	10.3%	767,832	136.7%	6.6%
香港	1,125,270	126.7%	13.9%	1,822,544	140.2%	15.7%
中華人民共和国	2,058,092	83.2%	25.5%	3,407,457	87.1%	29.4%
台湾	1,021,881	116.4%	12.7%	1,384,785	126.0%	11.9%
その他	1,369,270	112.8%	17.0%	2,094,002	123.9%	18.0%

## (2) 2023年 名古屋港 輸出実績

世界	名古屋港実績					
	数量 (KG)	金額 (千円)		前年比		
		前年比	構成比	前年比	構成比	
世界	3,000,336	150.2%	100.0%	3,288,749	146.4%	100.0%
アメリカ合衆国	1,192,132	243.1%	39.7%	1,326,935	186.4%	40.3%
大韓民国	562,491	125.0%	18.7%	445,314	148.9%	13.5%
香港	300,739	123.3%	10.0%	411,731	134.7%	12.5%
中華人民共和国	404,150	106.9%	13.5%	353,126	93.0%	10.7%
台湾	187,605	117.6%	6.3%	222,433	130.6%	6.8%
その他	353,219	128.3%	11.8%	529,210	139.5%	16.1%

(3) 名古屋港 国・地域別推移

	アメリカ合衆国				大韓民国				香港			
	数量 (KG)	前年比	金額 (千円)	前年比	数量 (KG)	前年比	金額 (千円)	前年比	数量 (KG)	前年比	金額 (千円)	前年比
2014年	306,728	103.3%	387,155	107.1%	404,398	126.0%	278,150	133.1%	169,880	142.2%	208,665	143.9%
2015年	385,009	125.5%	490,081	126.6%	431,859	106.8%	305,637	109.9%	176,121	103.7%	246,644	118.2%
2016年	398,094	103.4%	498,883	101.8%	462,620	107.1%	353,814	115.8%	210,295	119.4%	324,116	131.4%
2017年	354,575	89.1%	453,464	90.9%	655,644	141.7%	516,163	145.9%	214,959	102.2%	342,440	105.7%
2018年	377,312	106.4%	468,978	103.4%	808,795	123.4%	652,977	126.5%	308,948	143.7%	401,563	117.3%
2019年	426,887	113.1%	534,907	114.1%	529,570	65.5%	398,108	61.0%	580,668	188.0%	632,509	157.5%
2020年	305,729	71.6%	390,473	73.0%	380,287	71.8%	244,321	61.4%	440,438	75.9%	440,715	69.7%
2021年	474,430	155.2%	633,663	162.3%	311,910	82.0%	199,447	81.6%	291,935	66.3%	343,113	77.9%
2022年	490,292	103.3%	711,905	112.3%	449,820	144.2%	299,130	150.0%	243,869	83.5%	305,696	89.1%
2023年	1,192,132	243.1%	1,326,935	186.4%	562,491	125.0%	445,314	148.9%	300,739	123.3%	411,731	134.7%

	中華人民共和国				台湾				その他			
	数量 (KG)	前年比	金額 (千円)	前年比	数量 (KG)	前年比	金額 (千円)	前年比	数量 (KG)	前年比	金額 (千円)	前年比
2014年	31,717	213.7%	26,587	172.6%	194,849	137.0%	183,631	160.3%	57,301	121.5%	68,319	133.8%
2015年	61,766	194.7%	48,511	182.5%	180,479	92.6%	165,772	90.3%	92,156	160.8%	118,988	174.2%
2016年	104,704	169.5%	88,289	182.0%	197,764	109.6%	191,775	115.7%	73,217	79.4%	84,491	71.0%
2017年	83,049	79.3%	79,759	90.3%	191,332	96.7%	192,679	100.5%	86,861	118.6%	102,301	121.1%
2018年	166,357	200.3%	185,157	232.1%	186,614	97.5%	177,576	92.2%	124,665	143.5%	147,741	144.4%
2019年	195,435	117.5%	207,443	112.0%	127,007	68.1%	115,740	65.2%	124,157	99.6%	162,703	110.1%
2020年	286,064	146.4%	273,529	131.9%	115,988	91.3%	112,147	96.9%	99,885	80.5%	120,103	73.8%
2021年	454,056	158.7%	459,967	168.2%	128,299	110.6%	135,328	120.7%	153,744	153.9%	206,812	172.2%
2022年	378,094	83.3%	379,545	82.5%	159,478	124.3%	170,315	125.9%	275,397	179.1%	379,424	183.5%
2023年	404,150	106.9%	353,126	93.0%	187,605	117.6%	222,433	130.6%	353,219	128.3%	529,210	139.5%

### 3. 2023年 全国港別（空港含む）輸出実績

	数量 (KG)			金額 (千円)		
		前年比	全国比		前年比	全国比
全国	8,077,628	112.7%	100.0%	11,604,975	111.9%	100.0%
	名古屋港	3,000,336	150.2%	3,288,749	146.4%	28.3%
	横浜港	1,404,283	85.1%	2,424,641	96.3%	20.9%
	東京港	1,104,765	135.1%	1,838,798	151.8%	15.8%
	大阪港	1,128,213	94.8%	1,690,967	102.7%	14.6%
	神戸港	832,738	86.6%	1,355,440	73.4%	11.7%
	その他	607,293	110.8%	1,006,380	112.3%	8.7%

### 4. 港別輸出推移

年月	名古屋港		横浜港		東京港		大阪港		神戸港	
	数量 (KG)	金額 (千円)								
2014年	1,164,873	1,152,507	241,363	267,800	544,436	703,877	1,312,998	1,488,639	1,060,821	1,340,050
2015年	1,327,390	1,375,633	396,714	441,786	457,309	654,226	1,254,489	1,651,013	1,204,216	1,567,315
2016年	1,446,694	1,541,368	619,240	676,562	578,086	861,340	1,177,369	1,541,349	958,240	1,278,749
2017年	1,586,420	1,686,806	808,347	941,880	553,972	812,226	1,253,611	1,805,989	904,973	1,182,242
2018年	1,972,691	2,033,992	989,604	1,180,052	672,498	1,036,377	1,285,042	1,804,934	1,114,406	1,417,011
2019年	1,983,724	2,051,410	867,975	1,047,604	870,350	1,406,188	1,301,310	2,017,405	1,095,961	1,424,216
2020年	1,628,391	1,581,288	816,405	997,474	814,545	1,407,902	1,121,896	1,831,848	771,407	1,074,457
2021年	1,814,374	1,978,330	1,073,501	1,616,040	935,421	1,454,644	1,113,674	1,649,644	910,685	1,678,661
2022年	1,996,950	2,246,015	1,650,800	2,518,924	817,755	1,211,627	1,189,580	1,647,095	961,751	1,847,470
2023年	3,000,336	3,288,749	1,404,283	2,424,641	1,104,765	1,838,798	1,128,213	1,690,967	832,738	1,355,440



- ・本資料は統計として比較可能な1988年以降のデータを基礎としています。
- ・本資料の輸出数量及び金額は2022年以前は確定値、2023年は確々報値となります。
- ・本資料の円グラフについて、四捨五入処理により総計が100%とならない場合があります。
- ・本資料を引用する場合は、名古屋税関の資料による旨を注記してください。
- ・本資料に関するお問い合わせは、名古屋税関 調査部 調査統計課 (TEL052-654-4176)までお願いします。
- また、貿易統計は名古屋税関HPでもご覧いただけます。<<https://www.customs.go.jp/nagoya/>>